

熊野古道協働会議・分科会

意見交換 発言要旨

- 第1回分科会（令和4年6月29日開催）
 - （Aグループ）持続可能な保全体制づくり P 1
 - （Bグループ）案内等表記のルールづくり P 3

- 第2回分科会（令和4年9月13日開催）
 - （Aグループ）持続可能な保全体制づくり P 5

- 第3回分科会（令和4年12月23日開催）
 - （Aグループ）持続可能な保全体制づくり P 7
 - （Bグループ）案内等表記のルールづくり P 10

令和4年度熊野古道協働会議・第1回分科会（R4.6.29）
意見交換 発言要旨

*事務局において、意見交換での発言要旨を内容ごとにまとめました。

第1部 （Aグループ）持続可能な保全体制づくり（10時～12時）

【各保存会の活動状況】

○女鬼峠保存会（活動エリア：女鬼峠、中女鬼峠）

- ・会員27名のうち80代以上の方が約半数。65歳で若手、平均して70代後半。保全活動は約15名で作業（多気町から職員の応援あり）しており、他にもウォーキング行事を年2回開催している。
- ・看板の保守やボランティア保険には、多気町観光協会の補助金（10万円）を活用している。
- ・日常の保全活動はなんとかやっていけるが、5年後にどうなるかわからない。台風被害等により大きな補修が必要なときは、多気町農林商工課に対応を依頼している。

○二木島峠・逢神坂峠世話人会（活動エリア：二木島峠、逢神坂峠、波田須の道）

- ・会員は1名。他にも同じような状況の峠もいくつかあり、保全活動が持続可能でなくなってきている。
- ・保全活動に必要な費用には、東紀州地域振興公社の補助金を活用している。上限の10万円を超えることはない。
- ・台風被害等により大きな補修や倒木がある場合には、県教委・熊野市教委に対応を依頼している。

○海山熊野古道の会（活動エリア：始神峠、馬越峠）

- ・会員は20名、1回あたりの参加は約8名。
月1回、草刈りなどの軽作業がほとんどで、人数不足は感じない。
- ・保全活動に必要な費用には、東紀州地域振興公社の補助金を活用している。草刈り機、燃料、工具等の購入に充てており、毎年、上限10万円を使い切っている。
このほか、活動資金には次のものがある。
紀北町からのパトロール請負契約（年間5万円）
紀北町からの補助金（町内の4団体で30万円が配分される。1回あたりの作業で1人500～1,000円を労賃として支給。）
近畿自然歩道のパトロール（年間4万3千円）

【保全活動の担い手確保】

- 各保全団体が会員を増やすのは難しい。サポーターズクラブはリピーターも多くて有効だと思う。参加した成果を広報したり、もっとインセンティブがあればよい。
- サポーターズクラブは、草刈りや枝拾い等の清掃ウォークだけでなく、道普請も継続的にやってみてはどうか。
- サポーターズクラブは、活動日が土日に限られるが、平日の方が都合のよい保全団体では受け入れが難しい。

- 伊勢路全体の保全を統括する組織をつくってはどうか。企業等の参画や資金援助を呼びかける際にも、資金の使い道をその組織が公表していくことで、幅広い参画を得やすくなる。
- 和歌山県では、世界遺産センターが中辺路で道普請ウォークを行っているが、同じ区間で繰り返しやっている。他のエリアは、行政から森林組合に委託している状況。
- 伊勢路は、山を越えたら集落があり、それぞれに保全活動されている。全体を統括する組織、保全の広域連携ができるエリアだと思う。

- 保全も大事だが、人の流れをつくるのが重要だと思う。世界遺産の追加登録により、地元の人々に峠の価値を再認識してもらおうとともに、踏破ウォークなどで伊勢から歩く人を増やすことで、保全活動に元気を与えていただきたいと思う。

【保全活動の資金確保】

- 市町の予算にばらつきがあり、まずは県が基礎の部分固めて、その次に、市町ができることを進めていくことが大事だと思う。
- 東紀州地域振興公社が所管する補助金について、保全団体に対する補助は上限10万円。対象団体は東紀州エリアに限定しておらず、広く対象となる。市町に対する補助は、東紀州地域5市町が対象で上限50万円。使途は幅広く、国の補助対象外の工事費に充てることも可能。

【まとめ】

- 本日は不参加の保全団体があるので、今後のヒアリングで、今回の会議資料と要旨を伝えて、次回から参加できるよう要請をお願いする。
- 公社の補助金は、スタンダード化されている。市町の補助金をある程度標準化できるように、各自治体の支援と財源を明らかにしていただきたい。

第2部 (Bグループ) 案内等表記のルールづくり (13時~15時)

【ガイドラインの対象とする案内看板】

- 案内看板の役割は、道に迷わないようにすること。伊勢路の周辺地域をどこまでをカバーするのか検討が必要。
- 対象範囲は、世界遺産エリアに限るか、峠はすべてとするか、街中や峠間の道も入れるかの検討も必要。
- 迷わないように安全に歩けるように整備することがポイントではないか。
- 共通認識として確認だが、どの場所で誰が作る案内看板をガイドラインの対象とするのか。地元団体が作るものは対象外で、行政が作るものは対象ということによいか。
- ガイドラインは、伊勢路全域を対象として、共通したルール化を図りたい。

【統一化する項目】

(表記内容)

- 案内看板には、現在の位置・距離・方向の情報は必要で、伊勢と熊野の双方向から歩けるようにすべきではないか。
- 昔からある石製道標には、必ず目的地方向の「熊野」が表記されているが、最近の案内看板は、市町エリア内の近場の目的地が記載されていることが多い。少なくとも、目的地方向の「熊野」は表記してもらいたい。
- 伊勢路の基本は、伊勢から熊野への一方通行であることを重視してもらいたい。反対方向の案内はダメ。
- あえて逆向きのルートを推奨することは不要だが、現実として熊野から伊勢に歩く旅人もいるので、双方向からの案内とする必要がある。なお、この議論は、昨年度のアクションプログラム3 追記編の策定の際に議論済みである。
- 登り口は、降り口でもある。迷わないように安全にという観点では、双方向を丁寧に案内する方がよい。

(デザイン)

- 伊勢路の道標は、いろんなところから財源を確保してきた歴史もあり、デザインのバラバラ感は否めない。
一方で、100m道標は伊勢路ならではのよいモデル。シンプルだが距離の把握や危機管理にも役に立つ。
- 100m道標を伊勢路全域に広げてほしい (現在は世界遺産エリアのみ)。
- 案内看板は、何百m前からでも目立つものであるべき。派手な色にしてもらいたい。国立公園内等でデザインの規制があるかもしれないが工夫してほしい。
- 案内看板は、平成11年頃に市町が設置を始めたが、そのときは個人が自主

的に作る場合も統一したデザインにするため、シンプルでリーズナブルな仕様にしていく。

（ローマ字表記）

- ローマ字表記のルール化は大切。「東屋」を「Azumaya」と表記しても外国人観光客には伝わらない。
- 獅子岩や鬼ヶ城などの固有名詞も、どう表記するかルール化されるとよい。

（管理者の責任）

- 木製看板は経年劣化が進んでいるが、設置者が分からないケースがある。この分科会をきっかけに木製看板の更新や撤去につながればよい。
- 管理者の明記は必要。維持管理の責任の所在が明らかにできる。

【準拠すべき既存ルールの確認】

- 既存ルールには吉野熊野国立公園管理計画もあるので留意してもらいたい。案内看板については、国立公園内では設置許可が必要となるほか、デザインの規制もある。

【先行事例】

- 熊野市では、峠間の道中の分岐点ごとに路面シートを設置した。表記内容は、あえて伊勢路の案内のみに特化し、次の峠とその距離を記載している。市町単独の取組となるとペースも異なるので、20周年に向けて、各市町で負担金を出し合って連携するなど広域での整備が進むとよい。
- 路面シートは、伊勢路ならどこでも使えるデザインでよい。まとめて制作するとスケールメリットもあるだろうし横連携は大切。

【その他意見】

- JR駅から伊勢路までの案内情報が希薄。今回のガイドラインの内容かどうかは検討すべきだが、何らかの形で対応が必要。

【まとめ】

- 案内看板については、事務局において「対象の整理」「記載内容の整理」「管理者責任と維持管理」をさらに検討してもらいたい。
- 路面シートは、スケールメリットを生かして横展開につなげられないか、ぜひ検討してもらいたい。

令和4年度熊野古道協働会議・第2回分科会（R4.9.13）
意見交換 発言要旨

*事務局において、意見交換での発言要旨を内容ごとにまとめました。

【総論】

- 持続可能な保全体制にしていくために、担い手、資金、組織の3つを、仕組みとしてスタンダード化していく必要がある。その中でスタンダード化されているのが、東紀州地域振興公社の補助金だと思う。そのほかにも、市町独自の補助金やパトロール事業があり、伊勢路全体としてどのように配分、標準化していくのかが必要になってくる。

【熊野古道サポーターズクラブ】

- サポーターズクラブの現状について、会員数は約1,700人、1回あたり10人程度で、年間40～50人が活動に参加している。活動目的は、保全活動だけでなく、歩いて広報してもらうという目的もある。
- サポーターズクラブに参加してくれた方へのインセンティブがあるといい。参加回数に応じたインセンティブなどを検討してほしい。
- 一斉保全活動で団体間の連携ができる体制があれば、より団体間の交流が深まるのではないか。
- サポーターズクラブを受け入れる際などさまざまな場面において仕切ることのできる世話人を養成するべきだと思う。

【伊勢路全体の保全を統括する組織・目指す保全のレベル】

- 伊勢路で目指す保全のレベルをどこに設定するかを考え、それにより投入する資金、担い手をどれだけ確保するのか、統括する組織はどうあるべきか議論する必要がある。
- 統括する組織は民間とし、各峠に配分するリソースを考えるべきではないか。
- 保全活動の望ましいスタンダードについて、文化財の視点から、国史跡として最低限必要なレベルは、峠の文化財区間を歩いて踏破できることで、県と市町が取り組むべきこと。保全推進協議会で修繕が必要な箇所を把握し、国と県の

補助金で修繕できる。保全団体には、いかに快適に歩けるか、という部分を担っていただいていると思う。

- 教育委員会の所管は世界遺産区間のみで、伊勢路全域の視点から、登録されていないエリアの保全をどう担保するのか、ということについても議論が必要。
- 新組織に期待したい。新組織で保全団体の担い手の募集情報を広報誌に掲載するなどの協力ができるのではないか。
- 団体の会員が1人という団体もあり、担い手・後継者不足は深刻な状況。保全を森林組合やシルバー人材センターに頼むという手法も考えられるが、保全団体は熊野古道のことをよく理解している人たちであり、できる限りの存続を図っていくべきだと思う。

【資金・担い手確保】

- 資料に基づき情報の共有がされました。
- 東紀州地域振興公社の補助金で車の燃料代を支出できるよう、要望の声がありました。

【まとめ】

- 本日明らかになった、峠によって補助金に濃淡があるという状況を、各市町におかれては持ち帰ったうえでしっかりと認識をしていただきたい。

令和4年度熊野古道協働会議・第3回分科会 発言要旨 (R4.12.23)

※案内等表記のルールづくりのグループは2回目の開催

*事務局において、意見交換での発言要旨を検討ポイントごとにまとめました。「○印」は参加者からの意見、「●印」はその意見をふまえた意見交換・質疑応答のまとめです。

第1部 (Aグループ) 持続可能な保全体制づくり (10時~12時)

【熊野古道サポーターズクラブ】

- 県担当者に伝えたが、活動のビデオを記録しておき、それをプロモーション資料として、企業・団体への人的・財政的な協力依頼に活用してはどうかと思う。
- 新たな参加者を募るために、活動報告をホームページに掲載するだけでなく、よりアピールする方策を考えていただきたい。
- 遠方からの参加者もあり、仲良く熱心に取り組んでもらえた。サポーターズクラブの仕組みがうまく機能していると思う。多くの方が写真を撮る登り口や滑りやすい場所などを清掃していただき、安全面の配慮の必要性を改めて感じた。
- だんだんの会はいつも土曜日に活動している。曜日の設定は難しいところだが、日曜日は神社の神事とバッティングする参加者が多く、来年度以降は配慮いただきたい。
- ボランティアを受け入れる際に保全団体をサポートする世話人の組織化を考えていかないといけない。
- 今後サポーターズクラブを保全団体の活動日に合わせて平日に実施する計画があり、期待している。
- 総じて今年のサポーターズクラブは、今後の方向性を探る意味から良いチャレンジだったと思う。

【保全活動の望ましいスタンダード】

- 以前、土が流れてしまい歩きにくいところの道普請を行ったが、外から土を運んできたとか、加工した木材を使って階段をつくったとか、「過剰保全」という指摘や批判を受けた。
- そうした指摘をしている人は文化財調査委員で、その人たちに相談がなかったことにショックを受けていたのが実情。
市町が間に入って、保全活動の情報を文化財調査委員などの関係者に共有していただき広く意見を聞くとよいのではないかと。

- 全ての保全作業を関係者と情報共有するという事にはならないと思うので、線引きをしていきたい。
- 落ち葉をきれいに掃除した方がよいのか、残しておくほうがよいのかなどを含め、保全をどこまですべきか、やり方も含めて標準化しないといけないと感じた。
- 松本峠の石畳は大変美しいが、石畳を登ると木の根の道が続く。本来は木の根っこは出てきていなかったと思われ、土が入っていたのではないか。時代に合った補修方法が必要。
- 三重県世界遺産保全推進協議会で保全マニュアルを作成しており、そのマニュアルに沿って作業していただければよいと思う。今後、保全団体の方に送付するとともに、ホームページに公開する。
- 世界遺産が対象だが、それ以外についても、マニュアルと同じ方法で保全すれば十分だと思う。
やるべきことと、やってはいけないことを規定おり、作業方法についてQAを用意している。保全のレベルは規定していない。
- 保全活動の望ましいスタンダードについて、マニュアルを見たうえで再度議論が必要かと思う。
- 世界遺産登録エリアを中心に議論が進められているが、登録されていないエリアや登録されていても保全が行き届いていないエリアの保全についても、来年度の課題として議論してほしい。
- 保全会員の中には語り部などの活用者がもっと積極的に保全活動に参加すべきとの意見があり、保全と活用の連動は重要である。今後の周年事業に向けて、また世界遺産への追加登録に向けても、課題になってくると思う。

【工程表（案）】

- 企業の CSR 活動も以前は実施していた。コロナ禍で止まってしまったが、工程表に記載のとおり、企業・団体に協力を依頼していくよう事務局にお願いする。
- 保全活動について、ごみ拾いのように簡単な作業から、石畳道の補修のような負担の大きい作業まで幅広い。補修方法を動画で示すことも考えたい。
- サポーターズクラブの法人会員への人的・財政的支援の依頼や、企業版ふるさと納税を活用した支援を働きかけたい。
- 来年度は現在のスキームで企業・団体へ協力を依頼することになる。保全を統括する組織の立ち上げは早くて再来年度以降を想定しており、将来的には統

括組織の機能とすべきと考えている。

- 統括組織は、伊勢路「全体」の保全を統括する組織として位置付けるべきだと思う。伊勢路全体の視点から、未登録エリアや行き届いていないエリアも含め、組織の機能や必要なリソースを、来年度は具体的にご議論いただければよいと思う。

【公的な財政支援】

- 資料に基づき、各市町から情報の共有がされました。
- せっかく財政的支援を一覧にまとめてもらったので、今後もこの一覧を活用してほしい。
- 東紀州地域振興公社の補助制度の趣旨は、熊野古道の遺産を管理する市町を保全団体のボランティアが支えているなか、ボランティアでは賄えない資材購入費等の特別な支出を補助する制度であり、通常のボランティア活動以上のことを補助するということは想定していない。
- サポーターズクラブを受け入れる前の下見のガソリン代もできれば出してほしい。そのためにも、これまで寄付してくれた企業以外からの財源を確保する必要がある。

【まとめ】

- 行政による補助金の情報を共有でき、サポーターズクラブの新たな取組について確認できた。また、保全のレベル・スタンダードの問題が提起され、議論が始まったこともこの分科会の成果と言える。
- この分科会を欠席している市町が多い。多くの市町に参加いただけるように事務局から要請をお願いしたい。

第2部 (Bグループ) 案内等表記のルールづくり (13時~15時)

【検討ポイント】

(P9) ターゲットとめざす姿について

○意見なし

【検討ポイント】

(P12) 対象とする案内看板について・案内看板の類型ごとのルール化する項目について

- 英語表記はあるに越したことはないが、一から作るには大変だし、字も小さくなる。多言語表記はすべてQRコードに任せるという考え方もあるのではないかな。
- 英語表記は、日本語に併記する形で案内看板に入れる。
今回のガイドラインは、新設や更新を機に、案内看板を整備するときの考え方を統一するもの。さしあたっての対応としては、P11の女鬼峠の看板のように、英語表記だけ後付けするような方法もある。

- 英語表記は小さめになってしまうので、経年劣化で文字が読みにくくなるのではないかな。
- 経年劣化は避けられないが、長持ちさせるために文字を彫り込む方法もある。また、英語表記の文字高さも、日本語の4分の3を確保する。

- 材質について、支柱にはアルミを提案したい。少なくとも根本は腐らないように木製以外にしてもらいたい。
- 材質は、世界遺産としての価値をどう維持するのかというポイントにつながる。アルミは当時にはなかった素材なので、使うとなると世界遺産の真正性としての評価は落ちてしまう。そのため、議論の余地はなく採用できない。
ただし、根本の劣化を防ぐことは重要なことなので、根本部分の補強にアルミを用いるなど提案の方法をとれる可能性はあるが、工事が必要になるのでしかるべき協議が必要。

- 案内看板の設置場所について、設置者によって濃淡があるので、ガイドラインで整理してはどうか。
- 峠と峠の間の道は、本来のルートを特定できるか・できないか、ルートが一つだけか・複数あるか、歴史的な側面を重視しているか・ほかの点を重視しているか、などによって、地域差が出ている可能性もある。
- 設置場所にはいろんな考え方があるが、安全に歩いてもらうという視点が一

番重要。

- 山中の道迷いは事故につながりかねないので、分岐点に看板を設置することは大事。熊野古道以外のルートと重なっているエリアには、熊野古道ではないことを示す看板があると親切。
- 今回のガイドラインでは、伊勢路全域が対象なので、事務局においては、できるだけカバーする方向で検討してもらいたい。
- 追加登録の動きも考えれば、世界遺産登録の有無に限らず、伊勢路を踏破してもらうために案内看板は必要。

【検討ポイント】

(P18) 道標 必須事項と必要に応じて記載する事項の仕分けについて

- 必須事項が多いと、表示スペースの問題が出てくるだろうし、表示板が増えれば費用もかさむだろうし、簡素にする方向性は大事にってもらいたい。
- 標高を表示してはという意見があったが、峠の登り口は標高表示がよいのか、津波防災の観点からは海拔表示がよいのか。
- それぞれの違いを確認して検討する。いずれにしても、必要に応じて記載する事項として追加する。

【検討ポイント】

(P19) 起終点は、上のパターンのほかにも「伊勢と熊野」「伊勢と新宮」を使っている実例や「North と South」「Ise と Hayatama・Hongu」等を使うことも考えられるがどうか。

- 「North と South」は特に伊勢エリアで混乱が起きそう。
- 4km 道標では「伊勢と新宮」なので、参考にしてはどうか。
- 起終点は、「伊勢と新宮（本宮）／Ise と Shingu(Hongu)」を案として、地域の人にも意見を伺うこととする。
- 起終点と立寄り地点の表記は必須事項でよいか。両方載せると看板の表示面も大きくしたり、2枚用意する必要がでてくるがどうか。
- 両方とも必須事項として提案しているが、P17 の立て看板（簡易版）のとおり、起終点は標記の簡略化（伊勢神宮→Ise、熊野速玉大社→Shingu（熊野本宮大社→Hongu））して、表示面1枚に収める形も想定している。

【検討ポイント】

(P19) 史跡、施設等の選定については、右記ガイドマップ(*)に掲載されているものを基本として、設置者が検討することとしてはどうか。

- 表記の統一にあたって、馬越「峠」なのか、馬越「峠道」なのか、媒体によって、ブレがあるので考え方を整理してはどうか。
- 検討する必要がある。

【検討ポイント】

(P20) 「伊勢路」の認知度を高めるブランディングの観点から、「熊野古道」ではなく、「熊野古道伊勢路」の表記を基本とすることも考えられるがどうか。

- 伊勢路の表記は入れた方がよい。

【検討ポイント】

(P21) 記名看板 必須事項と必要に応じて記載する事項の仕分けについて

- P22の峠上の地点番号を示す立て看板は100m道標を指しているのか。
- 6月の分科会で、世界遺産登録外の峠にも100m道標を取り入れてはどうかという意見があったため、ガイドラインに反映したもの。

【検討ポイント】

(P25) ガイドラインの検討状況を和歌山県・奈良県にも情報共有してはどうか。

- 意見なし

【検討ポイント】

(P26) 案内看板の視認性向上・劣化防止の観点から、柱頭に色付き木製板を設置する方法を取り入れてはどうか。

- 濃茶色だと目立たない。
- 色付き天板のアイデアは実現してもらいたい。
- 赤白目印のデザインをオフィシャルなものとして使ってもよいか。
- 赤白目印のデザインについて、和歌山・奈良がどのような印象を持つかはわからないが、来訪者に伊勢路ならではのマークだと気づいてもらえたら、おもてなしにもなる。
赤白目印にしたのは、ほどよく目立たせるためで、大きさも工夫している。
赤白目印は世界遺産登録エリアでは使えないという認識。

- 世界遺産エリアの立木や石に、赤白目印を付けることはできないが、道標になら付けられる可能性はある。伊勢路全域で赤白目印をつなげられるので、検討してみる価値はある。
- 熊野古道協働会議で、赤白目印に提案があって関係者で了解が得られたときに、いくつか条件があったと聞いている。その経緯は確認しておいた方がよいのではないか。
- 事務局において確認する。
- 世界遺産エリアの道標の天板に、赤白の色付けをすることは、視認性向上・劣化防止の工夫としてあり得る。

【検討ポイント】

(P26) 地域産品の活用促進の観点から、案内看板の素材は、地元産木材（ヒノキ・スギ）の使用を推奨することとしてはどうか。

(再掲)

- 材質について、支柱にはアルミを提案したい。少なくとも根本は腐らないように木製以外にしてもらいたい。
- 材質は、世界遺産としての価値をどう維持するのかというポイントにつながる。アルミは当時にはなかった素材なので、使うとなると世界遺産の真正性としての評価は落ちてしまう。そのため、議論の余地はなく採用できない。ただし、根本の劣化を防ぐことは重要なことなので、根本部分の補強にアルミを用いるなど提案の方法をとれる可能性はあるが、工事が必要になるのでしかるべき協議が必要。

【まとめ】

- 本日、意見を伝えることができなかった方は、事務局の南部地域活性化局まで連絡していただきたい。概要については、参加できなかった主要メンバーにも情報共有する。